

達成度 A：達成できた（8割以上） B：ほぼ達成できた（6～7割） C：あまり達成できなかった（4～5割） D：達成できなかった（3割以下）

自己評価				学校関係者評価		次年度の課題		
NO	項目	重点目標	具体的方策・指標・基準等	達成状況	達成度	成果○と課題●	意見・要望・評価	次年度の課題
1	学校経営	①コミュニケーションを大切に	<ul style="list-style-type: none"> <li>○面接週間やホームルーム活動を活用し、生徒理解と生活実態の把握に努め、充実した学校生活を送ることができるように指導助言を行う。（2年・3年）</li> <li>○面接週間を設定することにより、時期をとらえ生徒とのコミュニケーションを図るきっかけをつくる。（教務）</li> <li>○生徒1人1台端末を活用することにより、生徒の個別最適・協働的な学びの充実及び緊急時の学びの環境構築を図る。（総合企画）</li> <li>○「GoogleClassroom」を中心としたGoogle Workspaceの機能をコミュニケーションツールとしてより効果的に活用できるよう各学年・教科等と連携する。（総合企画）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概ね達成できた。（2年）</li> <li>・二者面談を適宜行い、また夏・冬・共通テスト後に三者面談を行った。（3年）</li> <li>・年間計画に従って、1・2年生は3回、3年生は2回の面接週間を設定し、面談を行った。（教務）</li> <li>・生徒1人1台端末を活用した緊急時（臨時休校など）の学習環境整備が整い、学校全体としての対応も周知された。（総合企画）</li> <li>・11月に教員にも1人1台端末がようやく貸与されたおかげで、学校全体としてGoogle Workspaceの利活用が非常に進んだ。（総合企画）</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○面接週間以外でも機を逃さず2者面談を行い、長欠者を最小限に抑えることができた。（2年）</li> <li>●多忙を極める担任は、早朝、昼休みを返上して行っても期間内には終わらない。（2年）</li> <li>○二者面談・三者面談を行い、生徒理解と進路指導に役立てることができた。（3年）</li> <li>○時節をとらえて、生徒の学習、生活状況について生徒理解に努め、助言を行った。（教務）</li> <li>○生徒1人1台端末について、個別最適な学び・協働的な学びに関わる利活用を1歩1歩推進することができた。（総合企画）</li> <li>○学校全体としてGoogle Workspaceの利活用が非常に進んだ。（総合企画）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重点目標に則した経営が十分になされていると感じる。</li> <li>・面談活動を通して、きめ細やかな指導がされている点が評価できる。しかし、多忙を極める担任教師の負担増となっている点については、改善を図る必要がある。</li> <li>・コロナ禍の中での高校生活であったが、かなり充実した生活であると感じた。オンラインや学習に対する取り組みが前よりも良くなってきていると感じる。文化祭や研修旅行なども楽しそうだった。できれば台湾に行かせてあげたかったが、おおむね満足している。南高というプライドをもって今年も頑張っていただけばうれしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勤務時間外の面談を極力減らすために、面接週間において短縮授業を実施することを検討する。</li> <li>・生徒1人1台端末の個別最適な学び・協働的な学びに関わる利活用をさらに推進していく。</li> </ul>
		②学級減に伴う教員定数や生徒数の減少、海外研修旅行の実施など、学校変革期における体制の整備と対応を	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校務支援システムの効果的な活用により教員の校務軽減に努める。（教務）</li> <li>○第2学年「台湾」への研修旅行と総合的な探究の時間における「台湾学」を効果的に連動させる。（総合企画）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な探求の時間における「台湾学」については大きな成果を上げたが、研修旅行については、現地に行くことが叶わなかった。（2年）</li> <li>・e教務を活用し、考査の成績処理から調査書、生徒指導要録の作成まで行うことができた。（教務）</li> <li>・第2学年の研究旅行は情勢から判断し「台湾」へ行くことが叶わなかったため、研修旅行と総合探究「台湾学」を連動させることはできなかった。（総合企画）</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ギリギリまで渡航の可能性を待ったが、コロナの情勢により断念せざるを得なかった。（2年）</li> <li>○昨年度の「山形学」から海外へ目を向けることでグローバルな視点の広がりや差異に気づくことができた。（2年）</li> <li>○システムに入力するデータの担当者と入力完了時期を定め、データの入力漏れをなくした。（教務）</li> <li>●入力されたデータの照合の仕方が整理されていない。（教務）</li> <li>○デジタル採点ソフトの導入について検討を行っている。（教務）</li> <li>○研修旅行で台湾に行くことは叶わなかったが、2年生は様々な角度から台湾と日本を比較検討し「台湾学」の成果発表を行った。（総合企画）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒・教師共に、一人一台の端末の利活用が進んだことは大変素晴らしい。今後も継続して活用改善を図っていくことを期待する。</li> <li>・コロナ禍で、海外研修旅行が実施できず残念だったが、教職員のぎりぎりまでのご努力に感謝。</li> <li>・校務支援システムの効果的な活用が進んで大変良かった。これからもマン・マシンシステム上で齟齬が生じないように、予防のためのリスク管理と問題発生時の対処方法の継続的な検討が必要と思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出欠統計など従来行っている作業とシステム入力作業に重複するものがある。作業の整理が可能か検討する必要がある。</li> <li>・次年度は研修旅行の行き先が関西方面と内定したため、「台湾学」ではない総合探究の新しい流れを示す必要がある。</li> </ul>
		③ニューノーマル時代における新たな学びに対応し、さらに教職員の「働き方改革」を推進するとともに、PTAや後援会、同窓会等、外部団体との連携を密にしながら学校の活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学年PTA・保護者対象の講演会・学級懇談会を開催し、連携を強化する。（3年）</li> <li>○研究授業や授業見学週間を企画し、他教科の実践や生徒用一人1台端末を活用した授業を参観することで教員のICT活用能力を高める。（教務）</li> <li>○保護者と協同してPTA広報紙を発行したり、保護者のPTA行事への積極的な参加を促すなど、保護者との連携を推進する。（総務）</li> <li>○同窓会事務局との情報共有に努める。（総務）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年PTA進路講演会を予定通り行った。（3年）</li> <li>・研究授業や授業見学週間を通じて授業を参観し、ICT機器の効果的な使い方や教授法について研究した。（教務）</li> <li>・PTA広報誌「南高だより」は、コロナ禍で会議の運営や内容の変更を余儀なくされたが、予定通り2回発行できる見通しが立った。PTA活動は制限されたが、学年ごとにPTA行事が行われ出席率も7割を超えたりと、コロナ禍の中でも保護者との連携を図ることができた。（総務）</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学級懇談会を開くことはできなかった。（3年）</li> <li>○google Workspaceの活用したオンライン授業や協働作業の手順を理解し、多様な提示の仕方を理解することができた。（教務）</li> <li>●自宅待機の生徒にオンライン授業を急遽実施することになったため、授業の様子を配信するだけになることが多く、効果的な学習にならなかった可能性がある。（教務）</li> <li>●この状態が続くような場合に、保護者との連携を今後どのように図っていったらいいのかオンライン配信等も含めて検討が必要。（総務）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度もコロナの影響はあったが、少しずつPTA行事や南高祭など保護者とのつながりも回復しつつある。しかし、依然として制限の中での対応という部分は残っている。進学を含めたキャリアデザインを親子で考えるため、可能な範囲で保護者への情報提供や保護者とのつながりの機会を創出することが必要と考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時に授業とオンライン授業を両立させるための授業展開を研究する必要がある。</li> <li>・PTA活動や保護者との連携をどのように回復していくか検討する必要がある。</li> </ul>
2	学習指導	④主体的に学習に取り組む態度を育成し、授業第一主義及びタイムマネジメントを徹底させながら、学力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業第一主義及びタイムマネジメントを徹底させながら、主体的に予習・復習・課題に取り組む態度を育成する。（1年・2年・3年）</li> <li>○平日は一日150分、休日は1年生240分以上・2年生270分以上の家庭学習時間を習慣化しよう指導する。（1・2年）</li> <li>○部活動引退後は、平日270分、休日8時間以上の家庭学習時間を習慣化させる。（3年）</li> <li>○成績上位者の学習意欲を喚起し、学習リーダーとしての自覚を持たせ、自己実現への強い意志を育てるため添削指導を行う。（1年）</li> <li>○学習時間調査や成績分析、面談を行うとともに、教科担任、部活動顧問、家庭との連携を密にし、一人ひとりの生活実態を把握しながら、効果的な学習指導を行う。（1年・2年）</li> <li>○授業変更を行い、可能な限り自習をなくすことで授業で学ぶ環境をつくる。（教務）</li> <li>○年間行事予定及び月別行事予定を提示することで、見直しをもって計画的に学習に取り組めるようにする。（教務）</li> <li>○各教科ごとに校内研究授業を行い、生徒の学習意欲向上や主体的に学習に取り組む姿勢の醸成について研究する。（教務）</li> <li>○生徒1人1台端末を活用することにより、生徒の個別最適化した学力育成方法を教科に促すと共に、Googleカレンダー等を利用したセルフマネジメントを生徒に促す。（総合企画）</li> <li>○予習、復習を徹底して授業に臨ませるとともに、「授業第一主義」の趣旨を十分理解させ、授業の中で考え学ぶ姿勢を維持させる。（理数）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室棟の廊下に目標学習時間を掲示したり、学習時間調査の結果を伝えたりしながら意識の高揚を図った。しかし、高校レベルの家庭学習の習慣を身につけることができていない生徒がいる。（1年）</li> <li>・成績上位者40名に添削指導を行っている。提出できない生徒が若干いるが、難易度、内容ともおおむね好評であり、少しずつ力をつけてきている。（1年）</li> <li>・学習時間調査の結果からは、目標には届いておらず、家庭学習の習慣がついていない生徒が多い。（2年）</li> <li>・蔵王学習合宿を通して、夏休みの家庭学習習慣の確立を図った。（3年）</li> <li>・先生方にご協力をいただき、極力、自習がなくなるよう、すべての期間で時間割変更を実施した。（教務）</li> <li>・年間行事予定、月別行事予定を提示した。（教務）</li> <li>・教科ごとに、校内研究授業を企画し、実施していただいた。（教務）</li> <li>・学習や生活のセルフマネジメントのためのGoogleカレンダーの利活用には個人差が大きい、必要に応じて上手く活用している生徒は一定数いる。（総合企画）</li> <li>・最低限の予習や課題への取り組みは見られた。授業の中で考えようとする姿勢はかかなりできている。（理数）</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習時間の目標に達することができなかった。（1年）</li> <li>○面接週間だけではなく、適宜担任が二者面談を行い、生徒理解に努めた。（1年）</li> <li>●生徒は面談では「今の生活パターンではだめだと思います。」と自覚しながらも改善できないという現状がある。（2年）</li> <li>○●合宿中はたいへん有意義に過ごせたのだが、その後の学習に活かされたかどうかは生徒によるようだ。（3年）</li> <li>○1日の教科バランスに配慮しながら、時間割変更を行うことが出来た。（教務）</li> <li>○校内の各分掌や部活動で月別予定表を活用していただき、見直しをもって指導に当たっていただいた。（教務）</li> <li>●直前になっての校内研究授業になったこともあり、多くの先生方に参観いただけなかったことがあった。（教務）</li> <li>●セルフマネジメントのためのGoogleカレンダーの利活用について、学年と意識的に連携した指導が十分ではなかった。（総合企画）</li> <li>○授業の中で考える姿勢が見える。（理数）</li> <li>●予習、復習にかかる時間を増加させる。（理数）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重点目標に則した学習指導が十分になされていると思う。</li> <li>・ICTの活用によって、多様な授業展開ができるようになったことは大変良かった。注意すべきは、保護者や生徒に対し、教師は双方向（インタラクティブ）を保つ工夫が大切と思う。「可能なら対面」「授業配信時は、質問や相談に応じるオフィスアワーのような時間や工夫をする」なども一案。</li> <li>・端末活用における「生徒の個別最適化した学力育成方法」の強化における検討は、今後も継続的にを行い、その成果は蓄積・可視化して、共有することで今後の有用な資料になると思う。</li> <li>・授業の評価について、教職員・生徒・保護者に若干の温度差があるように思われた。授業第一主義ということは、教師も生徒も、一つひとつの授業を大切にすること。これからも教職員相互に協力して、授業改善に取り組んでいただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新教育課程の2年目となり、理数探究、総合的な探究の時間において複雑な時間割編成を行わなければならないが、自習が増えることが想定される。効果的な自習方法について各教科で研究していく。</li> <li>・Googleカレンダーを活用したスケジュール管理について、教員間でも活用や指導に関するノウハウの目録合わせを行うことができるようにしたい。</li> <li>・タイムマネジメントの重要性を理解させ、徹底させる指導を継続する。</li> </ul>
		⑤文章や情報を正確に読み解く力を養い、主体的・対話的で深い学びを通して、思考力・判断力・表現力を養成し、発表の機会、場の設定などに配慮する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大学入学共通テストを見据えて、文章や情報を正確に読み解く力を高め、国語・数学の記述力および英語の四技能を意識した授業を実践する。（1年）</li> <li>○大学入学共通テストを見据えて文章や情報を正確に読み解く力を養い、主体的・自律的に学習励む態度を育成する。（3年）</li> <li>○研究授業や授業見学週間を活用して他教科等の指導からよいところ学び、より質の高い指導力を身に付ける。（教務）</li> <li>○校内読書感想文コンクールを実施し、表現力の向上を図り、上位コンクールでの入賞を目指す。（教務）</li> <li>○主に総合的な探究の時間の運営をサポートしながら、生徒1人1台端末によるGoogle Workspaceを活用した主体的・対話的で深い学びの実践を促し、発表活動の機会を設ける。（総合企画）</li> <li>○主体的・対話的で深い学びとなる課題研究を通して思考力・判断力を、また発表を通して表現力を養成する。（理数）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科の授業において、共通テストを意識した授業を行った。（1年）</li> <li>・英語や国語の授業で長い文章を扱うことで、内容の理解、情報の読み取りの力を養った。（3年）</li> <li>・校内研究授業や授業見学週間を案内し、先生方に授業を見ていただいた。（教務）</li> <li>・1・2年生には、夏休みの課題として、読書感想文を課し、校内読書感想文コンクールを実施した。（教務）</li> <li>・1・2年生における総合的な探究の時間の運営をサポートし、生徒1人1台端末によるGoogle Workspaceを活用した学びを推進した。探究活動に関する外部講師によるセミナーや発表会を設けた。（総合企画）</li> <li>・実験で失敗を繰り返しながら次の方法を模索する、という過程で思考力・判断力が高められた。また、研究発表を重ねるごとに表現力に磨きがかかった。（理数）</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>●知識や技能を身につけるための反復練習（家庭学習）が十分ではなかった。（1年）</li> <li>○共通テストの結果を見ると、まずまずのできであった。（3年）</li> <li>○ICT機器等を用いた授業や協働的な学びを取り入れた授業など、参観することで、授業改善のヒントになった。（教務）</li> <li>●（忙しい先生が多かったためか）参加者が増えず、折角の機会を活かせなかった先生方もいた。（教務）</li> <li>○多くの生徒が本に接し、自己の内面と対話してその考えを表現することができた。（教務）</li> <li>○青少年読書感想文コンクール山形県審査において、優秀、入選することができた。（教務）</li> <li>○1・2年生とも、生徒1人1台端末でGoogleスライドの共同編集機能やチャット、Jamboard等を活用して協働的な学びを行っていた。（総合企画）</li> <li>○研究過程、発表を通し、思考力・判断力・表現力がある程度高めることができた。（理数）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的・対話的で深い学びの実践の場を設け、成果をあげることができたことは大変良かった。また、思考力・判断力・表現力の基盤となる、高校生として学ぶべき知識や技能の修得が十分にできるよう、継続した指導が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・可能な範囲で教材研究の効率化を行い、働き方改革による業務のスリム化を実施する。</li> <li>・ICT機器の授業での効果的な使い方について、研究を続ける。</li> <li>・探究的な学びに対する自主的・対話的な学びを継続的に促す。</li> </ul>

		<p>◎新教育課程における「総合的な探究の時間」の課題探究実践、観点別評価についての研究を深める。また、個々の教師が身に付けた知識・技能に加え、求められる知識・技能が変わっていくことを意識し、継続的に新しい知識・技能を学び続けていく姿勢を保つ。</p>	<p>○総合的な探究の時間並びに、海外研修旅行を活用し、次代のリーダーに求められるグローバルな視点とコミュニケーション能力を養う。(1年)</p> <p>○総合的な探究の時間の運営をサポートしながら、1年生は「やまがた学」2年生は「台湾学」という大きなテーマの基に、生徒それぞれの興味関心に応じてより充実した課題探究実践となるように促す。また、教科横断的で組織的な指導体制の構築を図る。(総合企画)</p> <p>○1年次の「総合的な探究の時間」に、次年度に向けた課題研究準備講座を適宜組み込み、探究活動の基本を身につけさせる。(理数)</p>	<p>・コロナ禍のため、海外研修旅行を国内研修旅行に変更した。(1年)</p> <p>・1年生「やまがた学」、2年生「台湾学」の総合探究が生徒の興味関心に応じてなされるよう各学年と連携した。また、教員全体での指導体制で2学期以降適宜進めることができた。(総合企画)</p> <p>・昨年度を上回る数の準備講座を開講し、課題研究の基礎および理科実験の基本を学ばせることができた。(理数)</p>	B	<p>●研修旅行の行先変更により、事前学習の計画見直し(1年)</p> <p>○他校の好例発表を聴いたり、専門家から話を聴いたりする機会を設けることができた。また、生徒各自の探究活動においてもインタビューやイベントへの参加など外部との関りをもつ生徒が出てきたことは前年と比較して大きな前進である。(総合企画)</p> <p>●台湾への研修旅行が叶わなかったことで、2年生の「台湾学」は調べ学習が中心となった。(総合企画)</p> <p>○課題研究の意義など、基礎を固めることができた。(理数)</p> <p>●研究テーマ設定にあたり、解決すべき課題を見出す力が不十分である。(理数)</p> <p>●探究活動とは如何なるものか、その根本をもっと指導していく必要がある。(理数)</p>	<p>・学校経営、学習指導の中で、台湾に関する事項が挙げられており、どのような比較結果となったかは把握できないが、DX、IT先進国へ目を向けることが可能になりつつあることについては期待がもてると感じた。</p>	<p>・探究活動へのアプローチに関する幅を広げ、生徒それぞれの興味関心により沿うようなあり方を提示する。</p> <p>・探究活動の基礎指導から実践体験までのプログラムを、更に研究し改善する。</p>
		<p>◎盤石な学力を基盤としながら、情報化・グローバル化など変化の激しい時代に求められる資質・能力を育成する。</p>	<p>○外部模試による学習状況の分析とともに、個人の学力と学習の点検、確認を行わせ、弱点の補強と学力の向上に努めさせ、全国での学年平均点偏差値60以上、且つ65以上の生徒60名以上を目指す。(1年)</p> <p>○長期休業中の国語・数学・英語の講習を実施し、実践的な学力の向上を図る。(1年)</p> <p>○ICTを活用した情報収集や様々な学問・研究に触れさせることで、先を見通し、社会が求めるものを創造していくチャレンジ精神と行動力を育む。(2年)</p> <p>○朝読書を通し、視野を広げ、自己や他者を理解する力を養う。(1・2年)</p> <p>○平常講習等や蔵王学習会を実施し、志望校合格に向けた盤石な学力を確立し、最後まで粘り強く努力する態度を育成する。(3年)</p> <p>○変化の激しい時代における社会課題を総合的な探究の時間を通して考えさせながら、生徒1人1人端末によるGoogle Workspace活用のスキルを高めつつ、グローバル化について深い思考を促す。(総合企画)</p>	<p>・模擬試験を活用しながら現状把握と学習意識の高揚を図ってきたが、数値目標を大きく下回ってしまった。(1年)</p> <p>・朝読書(TOSHIN TIMES)で、週1回(水)最新の研究内容を読んだ。(1年)</p> <p>・平常講習は予定通り行った。また、夏休みの後期平常講習を止め、9月以降の放課後講習で社会・理科に絞って行うこととなった。(3年)</p> <p>・1年生「やまがた学」、2年生「台湾学」において社会の課題を考察する上で、様々な情報を集め、比較検討することを通じて教科横断的な深い思考が促された。(総合企画)</p>	B	<p>●目標に見合った学習習慣の確立(1年)</p> <p>○朝読書により、大学での学びを知り視野を広げることができた。また、連続的の練習にもなった。(1年)</p> <p>○「総合的な探求の時間」については前述のとおり。(2年)</p> <p>●ICTに関しては、複数教科・科目にて授業実践しているが、「様々な学問・研究に触れさせる」という点ではまだ検討の余地がある。(2年)</p> <p>○理科社会に絞り、国数英は添削指導のみにしたが、成果はあったと思う。(3年)</p> <p>●講習はともかく、このころ欠席の生徒が多く、学力の定着にやや苦しんだかもしれない。(3年)</p> <p>○生徒のGoogle Workspaceの活用スキルは探究活動を通じて大いに高まった。また社会課題についても様々な角度から考え、思考を深めた生徒が多い。(総合企画)</p>	<p>・重点目標に則した進路指導が、ほぼなされていると思う。</p> <p>・目標に見合った学習習慣の確立のためには、現状分析と課題の焦点化を図る必要があると思う。</p>	<p>・多様化する大学入試に関する情報を収集・発信し、生徒の進路目標実現に向けての支えとなるよう指導を行う。</p> <p>・進路目標実現に向けて、授業や講習・模試等を通じ、生徒に必要な力を身につけさせるよう指導する。特に大学入学共通テストで個別試験へと向かえるような成績が取れるよう、指導を行う。</p> <p>・難関大学や医学科へ挑戦していくよう、難関大セミナーや医進塾への積極的な参加を促し、動機づけを強化する。</p> <p>・どのようにして探究活動にグローバルな視点を意識するかについても、新しい総合探究の流れの中で提示していきたい。</p>
3	進路指導	<p>◎広い視野と高い志を育成し、国立大学や難関大学への挑戦意欲を喚起しながら、生徒一人一人の自己実現に向けたキャリア教育を推進する。</p>	<p>○個別面談を通して、生徒一人ひとりの進路目標や適性を踏まえ、適切な文系・理系のコース選択の指導を行う。(1年)</p> <p>○外部模試により学習状況を分析し生徒の志望や学力を確認し、個別面談や三者面談を実施して、志望校合格に向けた学習計画をしっかり立てさせる。(3年)</p> <p>○個々の進路目標に沿った指導を行い、国立大合格150名以上、難関大学・医学部医学科合格20名以上を目指す。(進路)</p> <p>○大学入学共通テストにおいては、900点満点中630点以上の平均点獲得を目指す。(進路)</p> <p>○「1年職業講話」「各学年進路講演会」などを実施し、意識の高揚に努める。(進路)</p> <p>○希望者に対し、「医師体験」「看護師体験」「理学療法士・作業療法士体験」などに積極的に参加する。(進路)</p> <p>○総合的な探究の時間において「社会と自分との関り」について考えを深めさせることで、将来の進路やキャリアについて自分の興味関心や特性を活かしながらより幅広く考えられるようにする。(総合企画)</p> <p>○筑波研究学園都市研修を1年生対象に実施する。(理数)</p>	<p>・適正な文理選択の結果となった。(1年)</p> <p>・外部模試の結果を鑑み、早め早めに生徒にフィードバックを図った。(3年)</p> <p>・大学入学共通テスト等への研究会等へ参加し情報の収集に努めた。また今年度より、東北・山形両大学との「県大学入試研究会」が発足し、積極的に参加し、情報を共有した。(進路)</p> <p>・県教委「地元大学進学促進セミナー」へは3年生6名、1年生1名参加したが、2年生からの参加者はなかった。(進路)</p> <p>・社会と自分との関りを考えながら探究活動を進めることは将来の自分の生き方や社会のあり方を考える良い機会となっている。(総合企画)</p> <p>・見学人数など制限の多い中ではあったが、3年振りに実施することができた。(理数)</p> <p>・2年生対象に筑波研修の代替研修として「県工業技術センター研修」、「山形大学訪問」を実施した。(理数)</p>	B	<p>○南高での担任経験者がプリントを作成し、学年統一した指導ができた。(1年)</p> <p>○学年全体で苦手としていた科目が、徐々に向上を見せた。(3年)</p> <p>○最後の最後まで粘り強い生徒の取り組みと教員の指導により、県内でも上位の結果を残すことができた。(進路)</p> <p>○時期に合わせた、効果的な講演会等を行うことができた。(進路)</p> <p>●「医師体験」等へ希望する生徒が参加できるよう、広報に努める必要がある。(進路)</p> <p>○自分の関心に応じた探究活動を進める中で社会との関りについて考えたことは、生徒の視野を広げ各自のキャリア教育にもつながった。(総合企画)</p> <p>○映像で見るのと違い、実物を見、生で説明を聞くことは生徒に大きな感動を与える。これがきっかけで自然科学への関心が一層高まった生徒が多い。(理数)</p> <p>●山形研修は代替研修ではなく、一つの研修として確立していきたい。(理数)</p>	<p>・自己実現のためのキャリア教育推進については、講演会や研究会、講座やセミナーなど職業理解や進学への動機付けの機会が多かったことは大変良かった。今後も継続した指導が必要と思う。</p>	<p>・大学入学共通テストを含む大学入試に対するさらなる情報収集と研究、及び令和7年度大学入学共通テストへの「情報」に対する3年次の対応・対策と新課程入試の研究を進める。</p> <p>・探究的な学びにおいて、社会と自分との関りについて深く考えることを継続的に促す。</p> <p>・地元大学に限らず、各大学の魅力について、様々な場や手段を活用して発信していく。</p>
		<p>◎高大接続改革への万全な対応と、県内大学等との連携充実を図る。</p>	<p>○高大接続改革を見据え、Google Workspaceを活用し、生徒のキャリア育成に資するとともに、情報化・グローバル化など変化の激しい時代に対応すべく最新の改革動向を踏まえ適切に対応する。(1年)</p> <p>○最新の高大接続改革の動向を踏まえ適切に対応し、総合的な探究の時間等を活用した志望理由書や調査書の作成を通じて、生徒の進路意識を高めさせる。(3年)</p> <p>○大学入学共通テスト等、新しい大学入試制度への対応について、引きつづき研究を進め、必要な職員向け研修会にも参加する。(進路)</p> <p>○県教委「地元大学進学促進セミナー」への参加を積極的に促す。(進路)</p> <p>○山形大学理学部との連携事業として、実験講座を1・2年生対象に実施する。また、1年生を対象に、研究室訪問、施設見学会を実施する。(理数)</p>	<p>・大学等の企画する講演会等への参加を推奨した。(1年)</p> <p>・受験大学での研究内容を十分に研究し、志望校の決定、志望理由書の作成などに役立てた。(3年)</p> <p>・大学入学共通テスト等への研究会等へ参加し情報の収集に努めた。また今年度より、東北・山形両大学との「県大学入試研究会」が発足し、積極的に参加し、情報を共有した。(進路)</p> <p>・県教委「地元大学進学促進セミナー」へは3年生6名、1年生1名参加したが、2年生からの参加者はなかった。(進路)</p> <p>・3年ぶりに山形大学キャンパスでの実験講座を開講していただいた。1年生は予定通り3回実施できたが、2年生はコロナ関連で1回のみの実施であった。(理数)</p> <p>・1年生の研究室訪問は、時期の関係で実施できなかった。(理数)</p>	B	<p>●企画へ参加した生徒は多くはなかった。(1年)</p> <p>●令和7年度大学入学共通テストへの「情報」の取扱いが次第に見えてくる中で、主に3年次における対応を早急に研究し、対策を考えていく必要がある。合わせて、新課程入試の研究も引き続き進めていく。(進路)</p> <p>●地元大学の魅力について、引き続き発信していく必要がある。(進路)</p> <p>○実験することの意義や条件設定の重要性など課題研究につながるポイントを学ばせることができた。(理数)</p> <p>●研究室訪問等は、上記の「山形研修」の一つとして山形大学[理学部]訪問(8月)として2年生での実施を検討する。(理数)</p>	<p>・高大接続改革については、言葉は耳にするが具体的な取り組みが分からないため、生徒や保護者への情報提供を丁寧に行ってほしい。</p>	<p>・高大連携実験講座に加えての山形大学理学部訪問を「山形研修」として確立する。</p> <p>・大学等が主催する「高校生対象の講演会・研修会」に積極的に参加する意欲を育てる。</p>
		<p>◎自治的な生徒会活動と活発な部活動を奨励しながら情熱や粘り強さを涵養し、多様性の理解を促しながら自他を尊重しあう集団づくりを行う。</p>	<p>○部活動や生徒会活動への積極的参加を促し、自主自律の精神を育てる。(1年)</p> <p>○部活動や生徒会活動において中核となる自覚を促し、自主自立の精神を持って活動できるようにする。(2年)</p> <p>○最高学年として部活動や生徒会活動に積極的に取り組ませることで、情熱や粘り強さを涵養し、多様性の理解を促しながら自他を尊重し合う集団作りを行う。(3年)</p> <p>○本校部活動方針に基づき、各種大会での上位入賞・全国大会出場を目指す。コロナ感染予防対策を継続しながら、合理的、効果的、効率的な活動を追求し、学習との調和に努める。(生徒)</p> <p>○自主的、積極的な生徒会活動を実践させ、互いを尊重、協力する姿勢と自他の命を大切にすることを育てる。(生徒)</p>	<p>・多くの生徒が部活動に積極的に取り組んだ。(1年)</p> <p>・最後まで部活動をやり切るよう生徒に呼びかけ、完全燃焼を促した。(3年)</p> <p>・インターハイで、ボクシング5位入賞、団体剣道、ラグビー(花園)など個人種目も含めてのべ43名が出場。全国選抜大会で弓道、剣道団体など13名が出場、団体等も含めて合計62名の生徒が全国大会で活躍した。全国高総文祭には、文芸・書道・囲碁が参加。全国囲碁選手権と合わせて12名の生徒が出場し、活躍することができた。(生徒)</p> <p>・コロナ感染予防対策を考え、試行錯誤しながら、3年ぶりとなる学校祭、一般招待も含めて各種生徒会行事を実施することができた。(生徒)</p>	B	<p>○9月からの新たな生徒会執行部のメンバーは生徒たちの手により編成され、意欲的に取り組んでいる。(2年)</p> <p>○これまでにない数の生徒が、東北・全国の舞台を経験させていただいた。(2年)</p> <p>○剣道団体を始め、インターハイ出場を数種目が達成した。敗れた生徒も精一杯文武両道に努めた。(3年)</p> <p>○コロナ禍で、南高祭、クラスマッチなどの取組みや、ごみ箱の改良などは、チーム意識を向上させ「誇り」を高め、自主的、積極的な生徒会活動により責任と協調性が身についた。(生徒)</p> <p>○生徒会、各種委員会、生徒会報「コバルト」を通じて広報しながら活動することができた。(生徒)</p> <p>○部活動において、文武両道で頑張る生徒達と、熱心な顧問の先生方のご指導の下、すばらしい活躍であった。(生徒)</p> <p>●本校の部活動方針のもと、熱心な各部顧問の指導を、より合理的、かつ効果的に取り組んでいく必要がある。(生徒)</p>	<p>・重点目標に則した経営が十分になされていると思う。</p> <p>・コロナ禍ではあったが、教職員の指導の下で、種々の部活動や生徒会行事が実践でき、成果が得られたことは大変素晴らしいことだと思う。これらの経験は、生徒自らの将来の人生に強く資するものであることを意識化させることが大切と思う。</p> <p>・部活動は、運動部・文化部ともに積極的にチャレンジして、それぞれ結果を出してくれたことは、とても素晴らしいことだと思う。指導いただいた教職員の皆様に深く感謝。</p>	<p>・コロナ禍により縮小された生徒会活動の再活性化を図る。</p> <p>・外部指導者を活用しながら、働き方改革をふまえたよりよい部活動指導を実践していく。</p>

4	生徒指導	<p>⑪学校全体でいじめ防止に取り組みとともに、読書やボランティア活動を奨励し、道徳心や公共心を醸成する。</p>	<p>○「我等の心得」に則り、自ら考え、南高生としての自覚と誇りを持ち、責任ある行動がとれるよう指導する。(1年) ○出張図書館(3年、職員)や図書委員の広報活動を行い図書館利用の促進を図り、読書活動を促し公共心を育成する。(教務) ○校内読書感想文コンクールを実施し、読書の奨励を図る。(教務) ○「いじめ・非行をなくそう」県民運動を踏まえ、生徒会によるスローガン等を作成しながら、生徒の自主的な企画及び運営による活動を促進する。(生徒) ○生徒会や部活動、クラス単位でボランティアに取り組み、地域や社会の中で交流する場を積極的に設け、奉仕の精神や道徳心を育む。(生徒)</p>	<p>・「我らの心得」の理解が不十分であり、自律的に行動できていないところがある。(1年) ・3年生の教室に、移動図書館を開設した。また、図書館だよりを発行し、読書の奨励と図書館利用の推進を図った。(教務) ・1、2年生には、夏休みの課題として、読書感想文を課し、校内読書感想文コンクールを実施した。(教務) ・地元町内会と連携を図り、学校周辺の除雪に、クラス単位取り組んでいる。(生徒) ・地域でのボランティア活動を行う生徒が、増えてきた。(生徒) ・「いじめ・非行をなくそう」スローガンを作成し、本校いじめ防止基本方針とともに生徒へ周知しながら未然防止を図ることができた。(生徒)</p>	B	<p>○HR活動(PG)で図書館を利用するクラスがあつてよかった。(教務) ●図書館だよりや研修会、図書館オリエンテーションなどを通じて読書の奨励と図書館利用の促進を図ったものの、図書館の書籍貸出数は、昨年比で減少した。(教務) ○部活動単位やクラス単位だけでなく、地域でボランティア活動を行う生徒もおり、大切に育てていきたい。(生徒) ○いじめを察知した段階で組織的(小委員会)に対応することができた。(生徒) ○本校いじめ防止基本方針を教職員へ周知しながら改善を図ることができた。(生徒)</p>	<p>・「予測できないこれからの社会を生き抜く力」のよりどころの一つとして、南高生の自覚と誇りがあげられると思う。ともに健康で、自他を尊重しあう集団づくりを継続して行っていただきたい。</p> <p>・図書館の利用促進や図書の貸出数の増加に向けて、図書委員を中心としたさらなる活動を考える。 ・地域でのボランティア活動を行っている生徒に対しての指導や広報活動を充実していく。</p>
		<p>⑫自己肯定感を高めるとともに、自己管理能力の養成と教育相談の充実により、生徒の心身の健康保持に努める。</p>	<p>○面接週間やホームルーム活動を活用し、生徒理解と生活実態の把握に努め、早期に学校生活に適應できるよう配慮する。(1年) ○自己管理能力を高め、基本的生活習慣を確立し、自他を尊重し高めあう集団を育成する。(1年) ○「我等の心得」に則り、自主自律の精神を養い、南高生としての自覚と誇りを持たせ、社会生活に資する人材であることを自覚させる。(3年) ○非行行為の皆無、いじめや盗難のない安心・安全な学校環境づくりのために、「我等の心得」に則り、南高生としての自覚と誇りを持ち、自主的に自律した活動を奨励する。(生徒) ○様々な生徒に対し、養護教諭やSCと協力、連携しながら生徒指導を行う。(生徒)</p>	<p>・SNSを含めた人間関係の問題は少なく、お互いを尊重できる集団になってきていると考えられる。(1年) ・学年集会で再度『我等の心得』の大切さを共有し、3年生らしい生活を心掛けさせた。(3年) ・交通事故件数は現時点で14件。大きな事故にはなっていないが今後も0件を目指す。(生徒) ・不登校傾向、配慮が必要な生徒との生徒間のトラブルに対して、担任、学年、養護教諭、SC等連携しながら対応できた。(生徒)</p>	B	<p>・アンケートにおける「心身の健康管理・いのちの教育の推進」の評価が高かったことは、教員相互の意識が高くなっていることを示すもので、「健康第一」生きる力を育む上での基盤と思われる。 ・自転車の交通ルールについて、道路交通法の一部改正に伴い、一層の安全指導が必要と思う。</p>	<p>・自転車利用時のヘルメット着用についての指導を継続的に行う。 ・生徒会活動などを利用して、学校周辺でのよりよい交通マナーの向上を図る。</p>
5	その他	<p>⑬新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた取り組みや事故の未然防止、事故等発生時における的確な対応など、安全教育・安全管理の取組を推進する。</p>	<p>○手洗い、うがい、マスク着用など新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた取り組みを徹底して、健康管理、維持・増進に努めさせる。(1年・2年・3年) ○持ち物の自己管理、登下校の安全指導と自転車の運転マナーの指導を徹底する。(1年・2年・3年) ○周囲への配慮と、健康の自己管理、維持・増進に努めさせる。(1年) ○コロナウイルス感染症に関する通知に従い、適切な授業計画及び運営を行う。(教務) ○「さくら連絡網：健康チェック」の活用により、生徒の健康状態を把握して感染症等を未然防止する。また、手指消毒、マスク、手洗い、消毒、教室の換気等を励行する。(保健) ○校内外の点検等により学校事故の根絶、安全点検の徹底を図る。(保健) ○定期的に安全点検を行い、事務室と連携し、危険箇所を修繕する。(総務)</p>	<p>・感染対策を各クラスで呼びかけたが、残念ながら学級閉鎖などが出てしまった。(1年) ・保健委員会による日々の校内放送による注意喚起ははじめ取り組みは徹底していた。(2年) ・教員や生徒会による、感染症予防の呼びかけを毎日のように行った。(3年) ・長期間の学校閉鎖を行うことがなかったため、大幅な授業計画の変更を行わずに済んだ。(教務) ・コロナウイルス感染症に関わって自宅待機となった生徒のために、授業の様子を配信したり、オンライン授業を行った。(教務) ・定期的に安全点検を行い、危険箇所の修繕については、速やかに技能員に確認してもらい対応している。(総務) ・感染症対策として『さくら連絡網：健康チェック』の活用や各掃除箇所への「消毒グッズ」を設置。(保健) ・熱中症対策としてAED講習会や各部へ熱中症計配布、また保健だよりなどにより大きな学校事故を防ぐことはできた。(保健)</p>	B	<p>●感染対策・健康チェックの徹底(1年) ●罹患者数の減少に伴い、気の緩みから飲食時のマスクなし会話をしている生徒が散見された。(2年) ●食事中のマスク・換気について、全体的には頑張れたのだが、徹底とまではいかなかった。(3年) ○自宅待機となった生徒のためにオンラインで学習の指示や授業の配信を行った。(教務) ●オンラインでの授業配信が、最も効果的な手法だったのか、検証する必要がある。(教務) ●設備が古くなって根本的な改修が必要な部分が増えている。(総務) ○感染症対策として、各掃除場所へ消毒グッズや消毒液の設置により対策ができた。また、保健委員により放送等で感染拡大防止の呼び掛けを実施した。(保健) ○昨年と比較してAED講習の職員参加率が高く、安全対策向上がみられた。(保健) ●さくら連絡網「健康チェック」の生徒への実施徹底、感染予防行動の実施と意識の向上(保健)</p>	<p>・引き続き、さくら連絡網「健康チェック」入力による健康状態の把握と状況に応じた感染予防行動の実施(マスクの着用等)が必要である。 ・無線LANの改修が行われたのち、通常授業にオンライン授業が加わった際の効果的な授業展開について研究の必要がある。 ・南高ブログを適宜更新し情報提供を行っているが、更新されていることが外部からはわからないので、南高ブログやホームページそのものをもっとアピールしていく。</p>
		<p>⑭校舎内外の清掃・美化を徹底するとともに、学習環境の整備を図る。</p>	<p>○教室等の環境整備を徹底して、学習に集中できる清潔な環境づくりに努めさせる。(1年・3年) ○ゴミを持ち込まない・持ち帰る指導を徹底し、安全で清潔な環境づくりを進める。(保健) ○毎日の清掃指導と点検、清掃強調週間による徹底を図る。(保健) ○事務室と連携を図りながら、校内諸施設・備品の整備・充実を図る。(総務)</p>	<p>・教室や廊下に私物が散乱していた時期があつたが、一部を除きおおむね改善している。(1年) ・事務室と連携を図り校内の施設・備品の整備を適宜行った。(総務) ・各学年での指導により、HR教室や廊下はきれいな状態を保つことができた。(保健)</p>	B	<p>●継続してきれいな環境が維持できるように、自主的にできるようにする。(1年) ○●ごみの分別は、今年度瓶缶を各階教室棟の指定場所にゴミ箱設置によりある程度成果はあつた。各教室廊下の整理整頓されることが今後の課題(保健)</p>	<p>・環境整備や清掃の徹底を行うためにも、校舎老朽化に伴う汚れの蓄積や破損の改善を図る。 ・ルールを守ったゴミの分別と共に、自分の持ち物に責任を持ち、管理を徹底させる必要がある。</p>
		<p>⑮積極的な情報発信と学校評価活動による開かれた学校づくりに努める。</p>	<p>○「さくら連絡網」や学年通信の発行を通して生徒の学校生活と各種情報を提供し、保護者との連携を密にして共通理解を図る。(1年・3年) ○学年PTA・学級懇談会・保護者対象の講演会を開催し、連携を強化する。(1年) ○必要に応じて保護者面談・三者面談・家庭訪問を実施する。(1年) ○学校説明会及び中学校における学校紹介を行い、入学希望者に対して適切な広報活動を行う。(教務) ○南高ブログの管理を適切に行う。(総務) ○理数科生徒の活動状況を「南高ブログ」によりタイムリーに伝えることで内外への情報発信に努める。(理数)</p>	<p>・学年通信を12月末現在で41号発行し、さくら連絡網で保護者にも配信した。頑張っている生徒を讃え、保護者に学校の様子を伝えることができた。(1年) ・個別の面談以外では、入学式・PTA総会・進路講演会だけでは保護者の方と合うことができなかった。コロナのためクラス独自の学級懇談会等ができなかったため、お互いを理解する機会が少なくなつてしまった。(1年) ・さくら連絡網を15号発行し、保護者との連携の密を図った。(3年) ・学校説明会を実施し、725名(アンケート集計数)の参加を得た。また、中学校に招かれ、1件学校紹介を行った。(教務) ・南高ブログの管理を適切に行うと共に更新を適宜行った。(総務) ・行事のたびに「南高ブログ」を更新し、理数科の活動状況を内外へ発信することができた。(理数)</p>	B	<p>○学年通信により、頑張っている生徒を讃え、保護者に学校の様子を伝えることができた。(1年) ●保護者と担任団が、お互いを理解し合うための方策を考える必要がある。(1年) ○予定通り発行することができた。(3年) ○感染症拡大防止対策を行いながら、学校説明会を実施することができ、本校の特色や学校生活を中学生に知ってもらうことができた。(アンケート項目の回答では「ほぼ理解できた」と8割以上の参加者が回答した。)(教務) ○南高ブログを適宜更新しタイムリーに情報を発信することができた。(総務) ○理数科専任の中での業務分担が機能し、タイムリーな情報発信ができた。(理数)</p>	<p>・大学受験も、保護者の世代とは全く変わってきている。高校3年間は、進学を含めたキャリアデザインを親子で考える時期だと思うので、可能な範囲で保護者への情報提供や保護者とのつながりの機会を創出することが必要と考える。 ・「情報提供・発信」の部分が唯一気になった。南高らしい活動を行っても、生徒はわかっているが大人たちはわかっていない。進路情報などもどのように発信するかが今後の鍵。 ・学校評価書の「達成度」と「成果○と課題●」の関係性に若干の違和感を覚えた。(課題が多いのに、B評価とは?など)できる限り客観的にみて納得できるような表現・整理をすべきではないかと考える。</p> <p>・スクールミッション、スクールポリシーをホームページに掲載し、本校の目指す学校像を広く社会に発信する。 ・コロナ対策の見直しによって、コロナ禍で実施できなかった部活動見学など、各部と連携して、実施に向けて検討する。 ・学校や学年の諸活動や進路関係の情報発信をタイムリーに行い、保護者との連携を深めていく。</p>